

今月のトピックス

介護ベッド等による事故にご注意ください！

介護ベッド及び関連用具(以下、「介護ベッド等」という。)は、高齢化が進み在宅介護が広がるとともに、家庭での事故も多く発生しています。平成19年度から23年度の5年間にNITE((独)製品評価技術基盤機構)に通知された製品事故のうち、介護ベッド等によって被害が生じたものが136件ありました。

被害状況は、死亡事故が36件、重傷事故が42件、軽傷事故が41件等がありました。さらに、死亡事故及び重傷事故を併せた78件を発生場所別にみると、家庭が46件、病院が19件、介護施設が11件等であり、家庭における事故件数が最も多くなっています。

介護ベッド等の事故は、身体機能や認知レベルが低下するほど人的被害が多くなっています。また、設置方法に問題がある等、介護ベッドの使い始めに発生する事故も多くなっていますので、下記及び次のページを参考に、事故を未然に防止しましょう。

NITE((独)製品評価技術基盤機構) <http://www.nite.go.jp/jiko/press/prs120823.html>

介護ベッド等を使用する際の注意点

サイドレールやベッド用グリップ、ベッドボードの周りに頭や首、手足が入りそうな隙間がないことを確認する。

ベッドとサイドレール、ベッド用グリップ及びマットレスの組み合わせが適当かどうかを確認する。

ベッドやサイドレール、ベッド用グリップの破損・変形はないか、きちんと固定されているかどうかを確認する。

ベッドの周りの家具、壁との間に身体が挟まりそうな空間がないことを確認する。

ベッドの周りを整頓し、ベッドの下や上に物を置かないようにする。

電子レンジとその組み合わせで使用される製品による事故

電子レンジ及び電子レンジとの組み合わせで使用される製品による事故として以下のような事例が報告されていますので、ご注意ください。

【事例1】電気オープンレンジで食品を加熱していたところ、庫内から発火した。

誤って食品を長時間加熱したため、食品が過加熱されて発火したものと推定される。

【事例2】電子レンジで加熱したふる湯保温器を浴室に運んでいた際、突然破裂して内容物が飛び散り、顔と右腕にやけどを負った。

使用のたび、規定時間を超える加熱を行っていたため、本体樹脂貼り合わせ部分の強度が低下し、内圧の上昇に耐えられなくなって破損するとともに、溶融した内容物が噴出したものと推定される。

食品は、加熱されると炭化して発火することがありますので、加熱しすぎないように注意する必要があります。また、食品以外の製品を加熱する場合は、決められた出力、加熱時間を守ってください。

NITE((独)製品評価技術基盤機構) <http://www.nite.go.jp/jiko/press/prs120419.html>

平成24年8月の重大製品事故公表情報については、消費者庁のホームページをご覧ください。
(<http://www.caa.go.jp/safety/index.html>)

【発行】長野県企画部 消費生活室

電話 : 026 - 223 - 6770

ホームページ : <http://www.nagano-shohi.net/seihin-anzen/>

介護ベッドによる事故

事故の概要

【事例①】ベッド用グリップの隙間に足が挟まり、床に仰向けになった状態で発見され、重傷を負った。

【事例②】ベッドの下の床で倒れているのを発見され、骨折する重傷を負った。

【事例③】ベッド用グリップの固定レバー一部に衣服の襟が引っかかり、窒息状態となって死亡した。

事故の原因

【事例①】ベッド用グリップの上の空間に左足が入り込んだものです。

【事例②】自立歩行できない要介護者に、誤って転落防止用サイドレールのない自立支援用ベッドを使用したため転落したものです。

【事例③】ベッドの下のものを拾おうとした際、逆に転落して襟を引っかけたものです。



事故防止のために

- ◆頭や首、手足が入り込んで重傷または死亡に至るおそれがあります。
 - ・サイドレールやベッド用グリップやボードの周りのすき間を確認する。必要に応じて、すき間の小さいものに交換するか、すき間をふさいで使用してください。
 - ・ベッドとサイドレール、ベッド用グリップ、マットレスの組み合わせが適合しているか確認してください。
- ◆転落等のおそれがあります。
 - ・ベッドやサイドレール、ベッド用グリップに破損・変形がないか、確実に固定されているか確認してください。
 - ・物を取るために身を乗り出したり、サイドレール等の隙間に挟まれないようベッド周辺は整頓してください。

